資料番号	3

令和７年 12 月９日
課　名　農林水産局水産課
担当者　課長　横内
内　線　3609

令和７年度シーズンにおける広島かきのへい死状況について

１　概　要

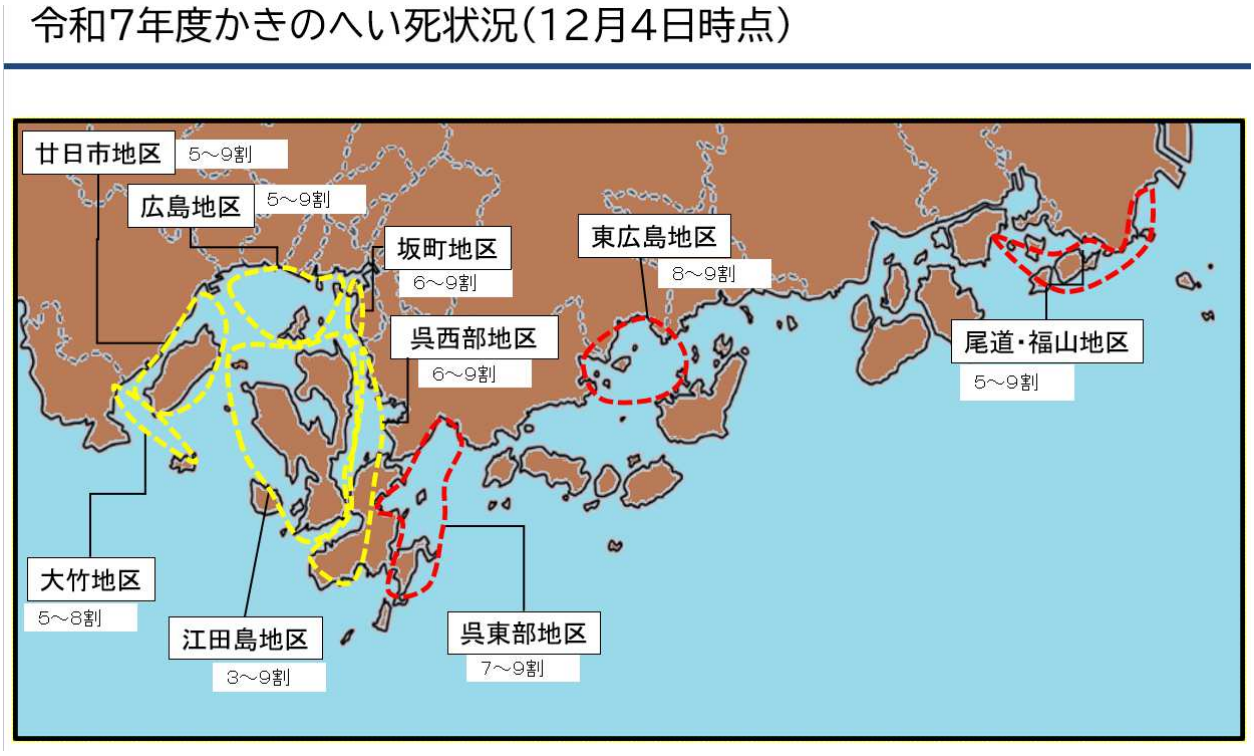
12 月４日時点のへい死状況及び今後の対応について報告する。

２　現在把握しているへい死状況

(1)　調査方法

出荷している生産者や漁協及び関係団体から聞き取り等により、現在の状況を把握した。

(2)　へい死の状況



(3)　聞き取った情報（まとめ）

・現在出荷しているかきは、主に「ノコシ」と呼ばれる３年養殖のかきである。

・へい死割合の多い県中東部地区においては、生き残った約１割のかきをむき身出荷するか、殻付きかき出荷するため、かごに詰め替えて再養殖をしている。

・県西部地区においては、一部へい死割合が平年並みのところもあるが、現在もへい死が増えているとの情報がある。

・経営的には、次期の資材の購入資金などに生産者は不安を感じている。

⑷　原因

前回の報告と同様に、県中東部地区におけるへい死の主な原因については、高水温と高塩分環境に同時に曝されたことによる生理障害と推定しているが、県西部地区におけるへい死の原因については、高水温に加えて貧酸素が影響していると推察しており、更なる検証が必要である。

３　今後の対応

⑴　へい死の状況把握

引き続き、聞き取り等により、県内全域のへい死状況を正確に把握する。

⑵　経営支援

かきのへい死による減収等により、厳しい経営状況にあるかき養殖業経営体に対し、必要な運転資金を無利子で融通する支援の検討を進める。

なお、支援の実施に向けて、年内を目途に県と関係団体で生産者に対する説明会を開催する予定である。

⑶　原因分析に基づく対策の検討

ア　広島県の取組

種苗の種類や産地、筏の移動履歴、垂下連の水深操作などの養殖実態を把握する調査を行うとともに、水産プラットフォームなどから得られた漁場環境データを用いて、水産海洋技術センターや有識者を交えた検討会議を開催し、へい死の原因分析や対策を検討する。

イ　国や他県と連携した取組

水産庁と水産研究・教育機構が主催で 12 月３日に開催された「マガキ大量死に関する連絡協議会」において、各県のかき養殖の動向、海洋環境等の情報や、大量へい死状況に関する情報の共有が行われ、原因究明に向けて、国や他県が連携し、統一的に取り組んでいくことを決めた。

次回の日程については、速やかな開催を目指し、被害報告などから対策の検討を進める予定である。